

可茂農林事務所の普及活動状況（2月）

今月の重点活動

■ 堂上蜂屋柿 剪定講習会にスマートグラスを活用

2月14日に美濃加茂市堂上蜂屋柿振興会の剪定講習会が会員約30名の参加を得て開催されました。

講習会では講師を務めた農林事務所職員がスマートグラスを着用して剪定作業を行いました。これによって受講者各自の端末に講師目線による剪定作業が映し出され、枝の切り方などの説明を受けながら剪定作業を学ぶことができます。また、今回の映像は保存され、振興会が進めている「堂上蜂屋柿生産マニュアル」の資料として活用されます。

講習会では「樹木全体に日が当たるように混みあった枝を剪定すること」等を、実際に作業を行いながら解説しました。

今後は、摘蕾作業や摘果作業等についても映像を撮り、生産マニュアルの充実を図ります。



【講習会のようす（スマートグラスの説明）】

（園芸産地支援係・宮田洋輔）

売れるブランドづくり

■ GAP 岐阜県GAP確認制度における維持審査

管内では茶生産組織、なす生産者、米生産法人が県GAPの確認を受けています。2月に茶生産組織となす生産者が維持審査の時期を迎えたため、農林事務所GAP指導員が農場審査を行いました。

現場審査では、農薬や燃料などについて、安全な方法・環境で保管管理がされていることを確認しました。書類（ほ場台帳、資材の購入伝票・在庫管理表など）については、ファイル等に綴じて適正に管理されていることを確認しました。

令和2年11月から「ぎふ清流GAP評価制度」が始まったことを踏まえ、円滑に移行できるよう、引き続き支援と普及に努めます。



【現場確認を行う農業普及課職員】

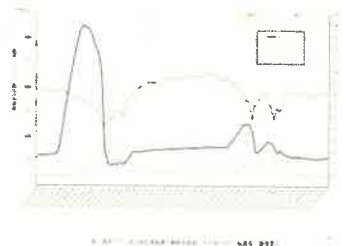
（地域支援第一係・斉藤政隆、鷲見彩子 地域支援第二係・加藤昌亮 園芸産地支援係・熊澤良介、広瀬貴士、宮田洋輔、矢嶋雄二）

■ いちご ハウス内環境モニタリング装置の導入に向けて

管内の高設いちごハウスに温度・湿度・CO₂を測定・記録できる簡易の測定器を設置して環境制御の取組みを継続的に支援しています。

記録されたデータをグラフにして、過去の管理状況がどうであったかを農家とともに確認しています。これにより農家は、無駄のない機器稼働の方法が目に見えてわかり、リアルタイムに環境測定できる環境モニタリング装置の導入への意欲を持たれました。

今後は、日射も測れる装置の導入を進めていきます。



【提供しているグラフ】

（園芸産地支援係・熊澤良介）

■ かぼちゃ **かぼちゃ新規栽培農家支援**

J Aめぐみのかぼちゃ生産協議会へ、令和3年度から七宗町の3名の新規栽培農家が加入する予定です。

2月18日に、J Aの担当者、かぼちゃ生産協議会副会長と農林事務所職員が、栽培ほ場の確認を行いました。

ほ場は主に水田ですが、水はけの悪い場所や鹿やサルなどの獣害が発生する可能性のあるほ場もあることが判明しました。新規栽培者には、水はけの悪い水田は排水の徹底を行うこと、獣害が心配されるほ場では、電気柵の有効性を説明しました。

引き続き、関係機関と連携しながら新規栽培農家の発掘に努めるなど、かぼちゃの生産振興を図ります。

(地域支援第一係・斉藤政隆)



【作付け予定のほ場】

■ 農業用水の微生物実態調査 **採水（4回目）**

2月16日、農林水産省が実施している農業用水の微生物実態調査のための採水を行いました。季節ごとに調査を行っており、今回が最終4回目です。いちご、ネギ等に使用される農業用水や地下水を取水口や蛇口より8ヶ所採水して、分析機関へ送付しました。

農林水産省では「栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針(改訂試行版)」を公表して、“生食野菜に収穫直前に使用する場
合、水質検査により安全性を確認できたものの使用に努める”
こととしていますが、本調査はその実態を確認するものです。

安全・安心な農産物の提供を進めるため、生産者のGAPへの取り組みを支援するとともに、衛生管理指針に基づく指導に努めます。

(園芸産地支援係・熊澤良介、地域支援第二係・加藤昌亮)



【採水の様子】